

## 令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立 古里 中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和5年度「とちぎっ子学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

本県児童生徒の学力や学習の状況等を把握・分析し、児童生徒一人一人の課題を明確にするとともに、各学校が組織的に学習指導における検証改善サイクルの構築・運用に取り組むことにより、本県児童生徒の学力向上に資する。

#### 2 調査期日

令和5年4月18日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第4学年, 第5学年 (国語, 算数, 理科, 質問紙)

中学校 第2学年 (国語, 社会, 数学, 理科, 英語, 質問紙)

#### 4 本校の実施状況

第2学年 国語 105人 社会 104人 数学 104人

理科 105人 英語 104人

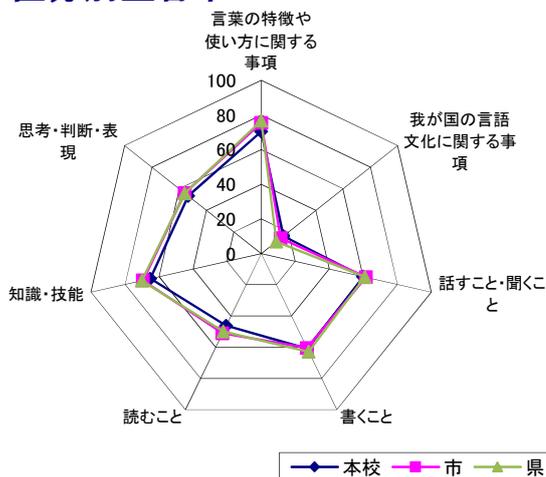
#### 5 留意事項

- (1) 本調査は、対象となる学年、実施教科が限られていることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立古里中学校 第2学年【国語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	言葉の特徴や使いに関する事項	70.5	75.5	76.7
	我が国の言語文化に関する事項	16.2	14.3	11.2
	話すこと・聞くこと	60.0	61.6	60.9
	書くこと	61.0	60.4	62.9
	読むこと	46.3	51.0	49.9
観点	知識・技能	65.1	69.4	70.1
	思考・判断・表現	53.4	56.0	55.9



## ★指導の工夫と改善

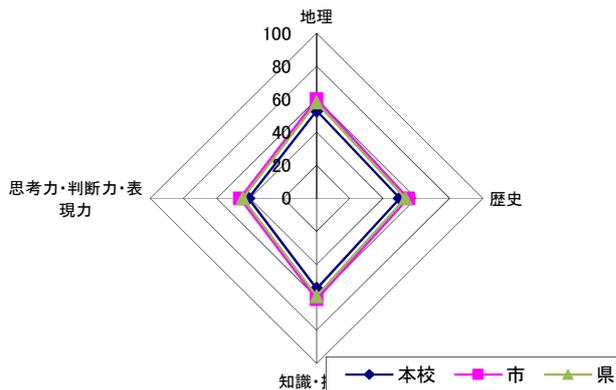
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
言葉の特徴や使いに関する事項	○単語の種別を問う問題では、県や市の平均を上回っており、一定の定着が見られた。 ●平均正答率が県から6.2、市からは5.0ポイント下回っている。 ●漢字の読みはほぼ県と市の平均だが、書きの問題になると無回答率が上がっている問題もある。	・漢字の読み書きについては、これまでも定期的な漢字テストなどを行ってきた。それを継続しつつ、より継続的な学習に取り組めるように、家庭学習などを用いた学習を呼びかけていく。 ・単語や文節などの文法に関する単元は、多くの生徒が苦手意識を持っているため、定期的に復習を行っていく。
我が国の言語文化に関する事項	○平均正答率が県の平均を5.0、市の平均を1.9ポイント上回っている。 ○歴史的仮名遣いを直す問題での正答率が高い。 ●問題全体での、正答率が16ポイント程度にとどまってしまう。	・歴史的仮名遣いは、古典を読むうえでも内容を理解するうえでも重要な要素となってくる。そのため、今後も授業内での復習を丁寧に行ったり、問題を解いたりして定着を図っていく。
話すこと・聞くこと	○話の内容を捉える問題では、市と県の正答率を上回っている。 ●問題全体の正答率は県から0.9、市からは1.6ポイント下回っている。 ●話の内容を踏まえて、自分の意見を書く問題での正答率が低い。	・話の内容を捉える問題では、メモを適切に取りながら、要点を抑えていくことが重要である。そのため、授業内でも聴き取りの問題を行ったり、普段の授業で必要な情報のメモを取ったりすることを呼びかけていく。 ・自分の意見を表現するということを苦手としている生徒が多いので、授業内でそのような活動を増やしていく。
書くこと	○平均正答率が市の平均を0.6ポイント上回っている。 ○文字数指定や段落構成などの条件を踏まえて書くことができている。 ●平均正答率が県の平均から1.9ポイント下回っている。 ●自分の考えやその理由を記述する問題での正答率が低い。	・書くことに関しては、記述に関する条件面などについて気を付けながら書くことができている。 ・自分の考え等については、メモなどを使って、自分の考えをまとめながら書く練習を行ってきたい。
読むこと	○場面の描写から内容を読み取る問題では正答率が高い。 ●平均正答率が県の平均から3.6、市からは4.7ポイント下回っている。 ●登場人物の心情の変化を問う問題での正答率が低い。	・登場人物の心情は、文章内の記述を根拠にして考えていくことができる。特に、登場人物の表情やセリフに注目することで読み取ることができるように指導していく。

# 宇都宮市立古里中学校 第2学年【社会】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	地理	53.1	60.1	58.1
	歴史	50.1	55.1	53.5
観点	知識・技能	54.8	61.1	59.3
	思考力・判断力・表現力	40.8	46.0	44.3



## ★指導の工夫と改善

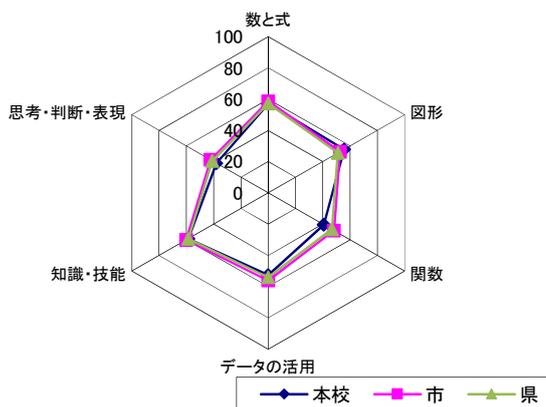
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
地理	<p>○ヨーロッパ州の地形に関する問題の平均正答率は、県の正答率を上回っている。</p> <p>○日本の領域を解答させる問題の正答率は、市・県の正答率を上回っている。</p> <p>●平均正答率は県・市より低い。</p> <p>●雨温図のグラフを読み取らせる問題の正答率は、市・県の平均正答率を大きく下回っている。</p> <p>●世界の気候区分を答えさせる平均正答率が、市・県よりも低い。</p> <p>●資料を読み取ったり、複数の資料をもとに考察・表現し自分の言葉で表現する力が弱い。</p>	<p>・全体的に、歴史より地理の方が苦手意識をもっている。特に日本地理の分野では、正答率から見るときに苦手意識が強い。今後は、教科書などに出てくる基本的なグラフ(雨温図・人口構成のグラフ・各国の産業品目の区別)などの見方をもう一度確認する必要がある。又、ICT教材を積極的に使い、興味関心が得られるような授業を展開していく。</p> <p>・地図をはじめとした、資料の読み取りの力が弱い。そのため、授業の最初に小テスト等の復習の時間を導入していき、資料活用の技能の定着を図る。また、日ごろの授業で地図や資料に触れる機会を増やしていく。</p> <p>・資料をもとに考察する問題の正答率が低いことから、授業中に資料の読み取りを行ったり、資料読み取りをもとに自分の考えを記述し他の人と意見を交換したりする時間を取り入れていく。</p> <p>この課題に関しては、まず簡単な記述問題を一緒にいながら、何を書けば良いのかの反復練習が必要になると考える。</p>
歴史	<p>○中世の日本についての問題の平均正答率は、県よりも高い。</p> <p>○世界の古代文明の説明についての平均正答率は、市・県の正答率を上回っている。</p> <p>○律令国家の土地制度についての平均正答率は、県の正答率を上回っている。</p> <p>○鎌倉幕府の政治体制について答える平均正答率は、県の正答率を上回っている。</p> <p>●全体の平均正答率は、市・県よりも低い。</p> <p>●資料を読み取ったり、複数の資料をもとに考察・表現したりする問題の正答率が低い。特に複数の資料をもとにする問題の正答率は、市・県と比べると大きく下回っている。</p> <p>●古代～中世にかけての文化史の平均正答率は、市・県と比べても全体的に大きな差が出ている。</p>	<p>・全体的に、地理より歴史の方が興味関心をもっている生徒は多いが全体の正答率は低い。基礎学力の定着のために、授業の最初に小テスト等の復習の時間を今後も継続する。</p> <p>・資料をもとに考察する問題の正答率が低い。論述問題には、語句が指定される問題が多いので、その語句をどのように使えばいいの訓練したい。</p> <p>そのために、地理同様にワークや定期テストに出る基本的な問題を、授業内で一緒に解かせる時間をつくる。</p> <p>・記述問題で、無回答の割合が高いことが分かる。問題を解く前からあきらめてしまう気持ち強いことが読み取れるので、改善していく方策を見つけ日々の授業でも声かけをしていきたい。</p>

# 宇都宮市立古里中学校 第2学年【数学】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	数と式	57.0	58.6	57.2
	図形	55.6	52.6	51.1
	関数	40.8	48.2	46.8
	データの活用	52.6	56.1	54.1
観点	知識・技能	58.6	60.2	58.6
	思考・判断・表現	38.0	42.3	40.9



## ★指導の工夫と改善

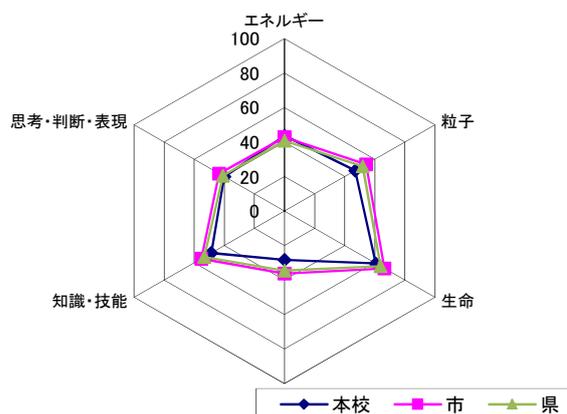
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
数と式	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率は、県、市よりも若干低い。</li> <li>○正負の数の大小関係や素因数分解について、県・市の平均正答率を上回っている。</li> <li>●負の数の減法や累乗の計算問題や、式の意味を説明する問題について、県・市の平均正答率を大きく下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・正負の数の計算は、すべての計算問題の基盤になるものであることから、授業の中でその都度計算のポイントを確認し、ワークやプリントで繰り返し練習を行う。</li> <li>・説明したり、記述したりする問題は、苦手とする生徒が多いため、解き方のポイントを押さえて、類題に取り組みせながら定着を図る。</li> </ul>
図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>○平均正答率は、県よりも4.5ポイント、市よりも3.0ポイント高い。</li> <li>○おうぎ形と円の面積や、正四角柱と正四角錐の体積について、県、市の平均正答率を10ポイント程度上回っている。</li> <li>●回転移動について、県・市の平均正答率を下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・図形の求積は、比較的理解ができているが、今後も様々なパターンの問題に取り組みさせることで、さらなる定着を図る。</li> <li>・回転移動は、ICTを活用しながら視覚化した教材を取り入れることで、動的に図形が捉えられるようにする。</li> </ul>
関数	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率は、県・市よりも低い。</li> <li>○関数になっているものを選択する問題について、県・市の平均正答率を上回っている。</li> <li>●グラフに関する問題や反比例に関する問題について、県・市の平均正答率を大きく下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・表、式、グラフをそれぞれ単独のものではなく、相互に関連付けて考えられるように、授業の中で丁寧に確認しながら問題に取り組みさせる。</li> <li>・比例の関係に比べて反比例の関係についての理解が乏しいため、復習問題を取り入れながら、今後の関数に関する問題に対応させていく。</li> </ul>
データの活用	<ul style="list-style-type: none"> <li>●平均正答率は、県・市よりも低い。</li> <li>○度数分布表から累積度数を求める問題や、ヒストグラムから最頻値を求める問題について、県・市の平均正答率を上回っている。</li> <li>●相対度数や度数折れ線の問題や、結論を出すための必要なデータ選択をする問題について、県・市の平均正答率を大きく下回っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・用語の意味や求め方をよく整理しながら問題に取り組みさせ、小テスト等で確認する。</li> <li>・様々なデータをもとに自分の考えを説明する機会を、授業の中で増やしていく。</li> </ul>

# 宇都宮市立古里中学校 第2学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	エネルギー	43.7	42.8	40.8
	粒子	47.0	54.2	52.0
	生命	60.6	66.4	63.8
	地球	28.2	36.2	34.5
観点	知識・技能	48.6	55.2	53.3
	思考・判断・表現	40.1	43.5	41.0



## ★指導の工夫と改善

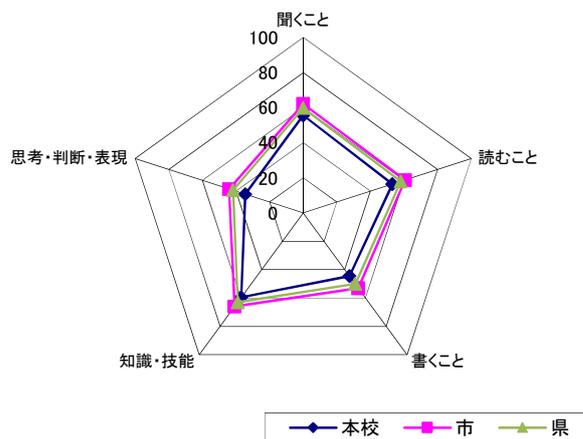
○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
エネルギー	<p>○平均正答率は、市よりも0.9ポイント、県よりも2.9ポイント上回っている。特に、光の現象に関する問題では、市・県の平均よりも10ポイント以上高い。</p> <p>●フックの法則に関する問題や考察を正しく書き直す問題では、平均正答率が低い。</p>	<p>・エネルギー分野では、目に見えない事象を扱い、テストなどの問題ではそれを図式化することが求められる。</p> <p>・授業では、実験によって事象を再現し、それと同時に起きていることを図式化する練習を行った。このことは効果的な指導であったと考えられるので、今後も続けていきたい。</p> <p>・問題演習を定期的に行い、様々な事象に関する問題に対応できる力を養っていきたい。</p>
粒子	<p>○密度によって物質を特定する問題や状態変化の粒子の様子に関する問題では、市・県の平均正答率を上回っている。</p> <p>●平均正答率は、市よりも7.2ポイント、県よりも5.0ポイント下回っている。特に、気体の性質に関する問題や水溶液の濃度や溶解度に関する問題では、市・県の平均よりも低い。</p>	<p>・粒子分野では、実験が多く、この分野が好きだと感じている生徒が多くいる。一方、実験方法の意図などを理解せず、なんとなく実験をしている生徒も多くいると考えられる。</p> <p>・実験の説明を丁寧に言うことを意識し直すだけでなく、実験方法を自分たちで考えるなどの活動も取り入れ、主体的に取り組む授業づくりをしていきたい。</p>
生命	<p>○他の領域よりも平均正答率が高く、市・県の正答率は下回るものの、正答率が80%を超える問題もある。</p> <p>●平均正答率は、市よりも5.8ポイント、県よりも5.0ポイント下回っている。全ての問題において、市・県の平均より低い。</p>	<p>・生命分野は、植物・動物の特徴を整理しながら分類していく単元である。そのため、多くの生物が取り上げられ、その中には生徒が実際に見たことがないもの、意外な特徴を持つものなどがある。</p> <p>・授業ではできるだけ多くの種類の生物を例示したり、自らが調べる機会を設けたりするなど、指導方法を工夫していきたい。</p>
地球	<p>○鉱物の割合と火成岩の分類に関する問題では、市・県の平均正答率を上回っている。</p> <p>●平均正答率は、市よりも8.0ポイント、県よりも6.3ポイント下回っている。特に、地層や地震に関する問題では、全体的に正答率が低く、無解答率が30%を超える問題もある。</p>	<p>・地球分野では、扱う教材のスケールが大きく、実物を観察したり、事象を再現する実験を行ったりすることが困難な内容が多い。</p> <p>・授業において生徒の興味・関心を引き出すのが難しい。そこで、ICT教材を有効活用し、動画や画像によってイメージしやすい環境を作り、実感を伴った理解にできるだけ近づけられるような授業にしていきたい。</p>

# 宇都宮市立古里中学校 第2学年【英語】分類・区別正答率

## ★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	聞くこと	55.6	62.0	59.7
	読むこと	53.1	60.6	58.0
	書くこと	44.6	53.1	50.1
観点	知識・技能	59.6	66.0	63.0
	思考・判断・表現	34.5	44.1	41.7



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
聞くこと	<p>○対話の内容を聞き取り、適切に回答しているものを選ぶ問題では、県の平均正答率を上回っている。</p> <p>●平均正答率は、市よりも6.4ポイント、県よりも4.1ポイント下回っている。特に英文の要点を聞き取る問題では市より12.9ポイント下回り、大きくポイントを落とす結果となった。</p>	<p>・読むことや書くことに比べても、平均正答率のポイントの差は大きくはない。これは授業の中で、ディクテーションや問題演習を多く行った効果であると思われる。</p> <p>・要点を押さえながら聞き取る問題の正答率が大きく下回ったため、要点を押さえながら聞く能力を養う活動や内用理解から、内容要約につなげる活動を多く取り入れていく。</p>
読むこと	<p>○英文から必要な情報を読み取り、適切なものを選ぶ問題では、県の平均正答率を上回っている。</p> <p>●平均正答率は、市よりも8.5ポイント、県よりも5.5ポイント下回っている。特に、対話文から必要な情報を読み取る問題では、市より14.1ポイント下回っている。</p>	<p>・長文読解のポイントをしっかりとし身に付けさせ、英文の要点を抑えながら読み進めていくために、文中のキーワードにマークしたり、問われていることが書かれている部分を探してみたりする練習を今後も継続する。</p> <p>・普段の教科書内容理解の際には、英語でのQ&amp;Aをより多く取り入れて、英語での答え方のパターンを身に付けさせる。</p>
書くこと	<p>○英文を正しい語順で書く問題では、市・県の平均正答率を上回っている。</p> <p>●平均正答率は、市よりもポイント、県よりも4.9ポイント下回っている。特に、対話の流れに合った英文を書く問題では正答率がいずれも、11.5ポイントとなっている。</p>	<p>・その日の授業の中で学習した、英文を定型文のようにして英文を書くことはできる。授業の中の英語でのQ&amp;Aでは答えることができても、書くことに抵抗がある生徒が多いので、話したことを英文で書く練習を増やしていく。</p> <p>・選択肢がある問題よりも、初めから自分で英文を作る問題に抵抗感が見られる。基本的な英文を、正しい英単語や英文法で書く練習を授業の中で継続して行っていく。</p>

## 宇都宮市立古里中学校 第2学年 生徒質問紙調査

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」についての肯定的回答は71.4ポイントであった。また、「家で学校の宿題をしている」については98.1ポイント、「家で授業の復習をしている」については84.8ポイントと、いずれも県・市と比較して大きく上回った。これは、今年度からの取り組みである「マイスタディ」(古里中学校版家庭学習)の成果であると考えられる。

○「授業を集中して受けている」についての肯定的回答は92.4ポイントで、ほとんどの生徒が積極的に授業に望んでいる。また、「授業で分からないことがあると、先生に聞くことができる」についての肯定的回答は75.3ポイントで、県・市と比較して大きく上回った。これらの結果は、教師と生徒間の良好な人間関係や信頼関係によって得られたものであり、今後も共感的人間関係を構築していくことが大切である。

●家での学習時間について、平日の学習時間が2時間以上と回答した割合は、県・市と比較して大幅に少ない。休日の学習時間が3時間以上と回答した割合も同様であった。一方、全くしないと回答した割合はいずれも少なく、ほとんどの生徒は平日・休日に限らず1時間前後の学習時間であった。全体的にみると、毎日平均して学習に取り組んでいるものの、学習時間が不足しており、特に休日の時間の使い方について改善が必要であると思われる。

●「授業で自分の考えを文章にまとめて書くことは難しい」と答えた生徒の割合は68.5ポイントで県・市と比較して高い。「友達の前で自分の考えや意見を発表することは得意である」に否定的回答をした生徒の割合も58.0ポイントで県・市と比較して若干高い。昨年度よりも改善傾向にあるものの、依然として自分の考えをまとめたり表現することに苦手意識があるとの結果が出ている。授業の中で自分の考えをまとめるためには、その礎となる確かな学力の定着や言語活動の充実にも焦点を当て、他者との学びあい場面の意図的設定や基礎学力の向上など授業改善を進めていく。

## 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
家庭学習を中心とした自主学習の充実(マイスタディ)	・主体的な学びを促す個に応じた学習指導 ・学習計画表の作成と家庭学習の習慣化(スタディ・ログ)	「家で、自分で計画を立てて勉強をしている」肯定的回答は71.4ポイント。「家で学校の宿題をしている」98.1ポイント。
主体的、対話的で深い学びの視点からの授業改善(指導と評価の一体化)	・毎時の「本時のねらい」の明確化と振り返りの場面の設定 ・生徒の学習改善に生かす評価の工夫	「授業の中で目標(めあて・ねらい)が示されている」肯定的回答92.4ポイント「授業の最後に学習したことを振り返る活動をよくしている」肯定的回答76.2ポイント。